

私たちを取り巻く“生きづらさ”を解きほぐす
～これまでの社会の“ふつう”を問い直すことから～

府立人研通信

大阪府立学校人権教育研究会

第3号

2024年9月24日発行

第1回研究部会のご報告

こんにちは、府立人研事務局です。府立人研通信第3号では、6月7日(金)に行われた「第1回研究部会」のご報告をさせていただきます。研究部会とは、教材部会、ケーススタディ部会、進路保障部会の3部会があり、フィールドワーク、講演、実践報告、資料提供等の交流をする部会です。



教材部会

教材・授業づくりに

必要な観点をみにつけよう

～西成ってどんなところ？

自分のことばで生徒に語ろう～

会場：ひと花センター

講師：NPO 法人釜ヶ崎支援機構

前半は釜ヶ崎のフィールドワークを行った。シェルターの見学時には「コロナの時期、クラスターをここで出してしまうと、ここにいる人たちを守れなくなる」という話やある教会では「カップラーメンは単価が高い。袋ラーメンなら安いけど作る場所がない。でも、ここで鍋とガスを提供することでラーメンを作って食べることができる」という話を伺いながら案内してもらった。地域の中にあらゆる支援の場所があることを実感することができた。地域を回っているなかで、「男性も生きにくい社会であった」という話があった。全国から集まってきた人たちは経済的理由だけではなく高度経済成長期の「家庭をもち、働いて家族を支える」という、男性像から外れてしまうことが多く、ふるさとに帰ることが難しいという話はとても印象的であった。

後半は場所を変えて、釜ヶ崎の歴史や支援の内容をご講演いただいた。バブル崩壊後、日雇労働者は真っ先に失業者になってしまったこと。国家的に日雇労働市場が拡大されてきたのにも関わらず、失業者に対して保障をしなかったことの問題点等をお話

しいいただいた。貧困は自己責任論で語れないということを改めて考えることができた。そして、労働者のみなさんが運動を繰り広げることで清掃やシェルターの権利を獲得してきたことを教えていただいた。現在、ホームレス状態にある理由の一つとして知的障がいや精神障がいがあるということもあった。釜ヶ崎支援機構は若者に対しての支援も数多くおこなっている。その理由はホームレス状態になる人のなかで成育歴が影響している場合も多く、高校生世代以降に支えてくれる人が少なく孤立し、最終的にホームレス状態になってしまうとのことであった。いかに福祉とつながっていることが大切であるかわかった。「福祉のまち」として多くの支援団体が活動をしている西成を知ることができた。



ケーススタディ部会

差別事象から考える生徒の多様な背景

会場：府立柴島高等学校 社会科教室

学校現場で生じた事例等を活用し、「差別事象への対応」について2つの観点から考えるワークショップを行った。1つめは、事例検討を通して差別

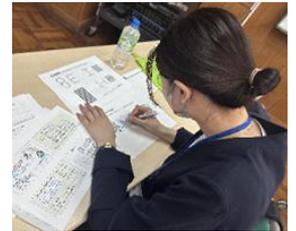
事象の原因等を考察し、生徒たちの多様な生活背景の捉え方について考察した。2つめは、差別事象が起こった際の学校全体での対応について検討した。また、その後の対応で役立つ資料の共有も行った。

どこの学校でも起こりうる事例として、参加した先生方と一緒に考え、様々な意見が共有でき有意義な時間となった。今回は参加者が少なく、残念な点もあったが、その分、事例について深く掘り下げて考えることもでき、なかなか経験できない検討会となった。

参加者からは「今回検討し合った事例がもし勤務校で実際に生じた時に今日の学びをいかしたい」「実際に検討したような事例が学校現場で起こりうるのだと、いろいろ考えることができ、何かあったときの心構えとなった」という感想が寄せられた。ワークショップを通じて、差別事象が生じた背景を正しく分析する力を養い、生徒たちを加差別の立場に立たさないための意識を参加者どうしで高めあうことができた。



高田裕美さんより、「フォントデザインから見える多様性社会～UDフォントの開発背景とデザイン～」と題してご講演いただいた。書体の役割、UDフォントについて、基礎的環境整備と合理的配慮、MORISAWA BIZ+という年契サービスについて、教育現場で活用されている「UDデジタル教科書体」が開発された経緯やフォントデザインがどのように教育に関わっているのかをお話いただいた。文字をつくる書体デザイナーという仕事、伝わるデザインとは？ さまざまなフォントがあること、UDデジタル教科書体、日・英・中・韓の多言語フォント、学校と企業とのつながり、女性の社会進出、ユニバーサルデザイン、諸機関との連携、著書「奇跡のフォント 教科書が読めない子どもたちを知って～UDデジタル教科書体 開発物語」についても触れただき、UDフォントを通して、多様性社会とデザインの結びつきを知る機会となった。ビットマップを作成するワークや錯視調整のミニテストを通して、文字の構成や書体デザインの注意点についても学んだ。



質疑応答も活発に行われ、人権教育の視点で“デザイン”を考える貴重な機会となった。



進路保障部会
たとえばUDフォントから
～デザインを考える～

会 場：府立柴島高等学校 会議室
講 演：高田 裕美さん（株式会社モリサワ）
報 告：府立大手前高等学校 定時制の課程

部会の冒頭で、府立大手前高等学校定時制の課程より、2023年度に校内生徒支援委員会とICT委員会の合同企画で行われた「UDフォント」を取り上げた教職員研修の資料を報告いただいた。

次に、株式会社モリサワの書体デザイナーである

直近の主な活動予定

第5回 HRF生徒実行委員会	10月5日(土)
第2回 研究部会	10月18日(金)
第6回 HRF生徒実行委員会	10月19日(土)

☆詳細は各行事の3週間前までに各校にお送りします。

府立人研 大阪府立学校人権教育研究会
〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内
(通送便は「府立人研」とお書きください。)

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通) (お電話の場合は、火曜日をお願いします。)
E-Mail furitsujinken@nifty.com (お問い合せは、なるべくメールをご利用ください。)
U R L <http://furitsujinken.in.coocan.jp/>

↓府立人研 HPも
チェックしてくださいね

「府立人研だより」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。